

無人航空機の目視外及び第三者上空等での飛行に関する検討会
第1回 物流分科会 議事概要

1. 主な議事

○事務局及び構成員より各資料を説明した上で、意見交換を行った。

2. 主な意見

- ドローン物流の実現に向けて、機体性能面の主要な課題としては耐気象性、航続距離、積載量等が挙げられる。また、運用面としては複数のドローンの効率的な管理、他業者との飛行経路調整、緊急時の退避地点の設置などが挙げられる。
- ドローン物流のサービス価値向上のためには第三者上空の飛行が必要不可欠であり、また、飛行可否判断を人によらないようシステム化することが重要である。
- 安全な運航は、機体の安全性、飛行場所の安全性、運用時の安全性の3つの要素の掛け算によって実現される。
- 災害発生時には、飛行目的の変更方法、飛行自粛要請への対応等が課題として挙げられる。
- 荷物の受取方法を統一することによって、機体の設計や離着陸方法を規格化できるのではないか。
- 第三者上空の厳密な定義を明らかにし、具体的にどこならばドローンを飛行させて良いのかが示されれば、ドローン物流の実現が一層早まるのではないか。
- 物流で利用するためには、飛行が許された空域を正確に飛ばす必要があり、情報の把握に高い精度が求められることから、さらなる技術の進歩が必要である。一方で、飛行経路は一度決めたら変わらないため、飛行経路の計画が容易になることから、飛行に際して厳しい制約をかけて安全に運航させることが可能となると考える。

○機体の安全性については開発者の競争領域でもあり、これをいかに担保するか、どういった場で検討していくかが業界の重要な課題のひとつである。

○当会議の今後の検討の進め方として、まずは無人地帯、有人機と空域分離された状態での目視外飛行のうち、特に2地点間・単機運航のケースにおける要件についての検討を開始し、それをふまえて2地点間複数機運航とより複雑な条件下で検討を展開していく。

以上